

令和3年(2021年)2月9日(火)
公益財団法人広島平和文化センター
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 副館長：大瀬戸
電話：082-543-6271 担当：橋本

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 令和3年企画展

「わが命つきるともー神父たちのヒロシマと復活への道ー」の 試写会を開催します

令和3年3月1日から開催する企画展で上映する映像作品の試写会を開催します。
今回は、ナレーションを詩人のアーサー・ビナードさんに担当していただきました。

1 試写会の日時および開催場所

日時： 令和3年(2021年)2月15日(月) 18:00～

開場時間： 17:45 (南側メインエントランスのみからの入場とし、18:00に閉場します)

場所： 追悼平和祈念館 地下1階 情報展示コーナー

※ 関係者のみでの開催となります。報道機関等で取材ご希望の方は、
2月12日(金)までに電話か電子メールでご連絡ください。

追悼平和祈念館(橋本) 電話:082-543-6271、電子メール:info@hiro-tsuitokenkan.go.jp

2 内容

- ・館長あいさつ
- ・企画展関係者の紹介(アーサー・ビナード氏、教会関係者、映像作品の出演者ほか)
- ・映像作品の上映(約30分)

3 企画展の概要

広島に原爆が落とされた1945年8月6日、イエズス会の幟町教会(爆心地から約1.2キロ)には4名の外国人神父がいました。2名は重傷を負いましたが、皆で力を合わせて教会の仲間や隣家の人を救い出します。

一方、広島市郊外、祇園町長束のイエズス会修練院(爆心地から約4.5キロ)へは、救いを求めて100名近くの被爆者たちが詰めかけ、8月6日の午後には野戦病院のような状態となりました。長束修練院の院長、アルペ神父は大学で医学を専攻した経歴があり、「今こそ私が身につけていた医学の知識を生かす時」と、直ちに自室を手術室に充て、他の神父や修道女たちと共に不眠不休の治療にあたりました。

被爆後の状況を克明に描いた外国人神父たちの体験記を通して、ヒロシマの復活への道をたどります。